

役員・委員長退任挨拶

●本條会長

今年度、会長職というロータリーライフに於いてひとときわ格別な奉仕の機会、そして私にとってまたとないロータリーへの恩返しの好機を授かりましたこと、誠に有難うございました。

お陰様で、当初計画の諸事業を滞りなく運ぶことができ、また私自身も一年を通して健康で、例会・理事会ほか全てのクラブ行事を休むことなく出席することができました。多くの方々のご尽瘁とお心遣いの賜と感謝しております。

一年を振り返って特に嬉しかったのは、段会員、北村会員、櫻井会員と、3名の新会員をお迎えできたことです。お三方には、末永くロータリーを楽しめますように願っております。

逆に年間を通じて寂しかったのが、例会場の空席でした。もっと多くのメンバーと例会を共にしたかったというのが正直な気持ちです。これは私の不徳の致す所として反省したいと思います。

今年度は、“Be Rotarian”をテーマに掲げ、そして「当たり前のことを当たり前に」という心掛けの下に、理事会としてクラブの運営と懸案処理に努めて参りました。荻野幹事、富田会長エレクト始め、理事・役員・各委員長さん方には、夫々の立場で最善のご尽力を賜りました。

その結果、数年来クラブの課題となっていた3つの懸案、即ち、①危機管理体制の整備、②戦略計画委員会の設置、そして③委員会組織の合理化について最適な結論を得ることができ、また新たな取り組みとして、①週報の内製化、②広報パンフレットの作成、③地区補助金プロジェクトの実施、④RLIセミナーへの参加といった、実りあるチャレンジを成就しました。

これらは全て、メンバー各位がそれぞれにクラブのことを思い、ご協力を頂いたお陰です。素晴らしいメンバーの価値ある功績を、心より称えたいと思います。

また事務局の安井様には、11年に亘り、クラブの事務を的確にこなしていただきました。これからどうぞお元気で、益々のご活躍を祈念しております。

一年間、お世話になりました皆様方のご厚情に改めて御礼を申し上げ、退任の挨拶と致します。

●富田副会長兼クラブ奉仕委員長

当委員会は、「親睦こそ我がクラブ」のモットーと本條会長の“Be Rotarian”のテーマの下、会長・幹事・各委員会との連携とDEIの推進により、クラブの活性化を図り、「奉仕の理想」に沿ったクラブ管理運営を目指して参りました。

久々に完全な形で家族例会を開催された親睦委員会を始め、例会担当・会員増強・広報・情報各委員会は夫々、当初計画通りの活発な活動をして頂きました。

本年度、広報委員会と会員増強委員会が委員会の垣根を超えて、広報パンフレットを協力して作成する試みがありましたが、会員が減少する中で、今後この様に、委員会が連携してワンチームとなる活動が益々必要と考えると共に、これが新たな活性化に繋がるのではと期待する処です。

また、広報委員会により週報が内製化され、様式も変わりましたが、この様に質を維持しながらコストを意識した試みは今後果敢に推奨されるべきと考えます。

当委員会は、クラブの現状を熟慮し、危機管理にも配慮しつつ、また先般発足した戦略計画委員会と連携しながら、クラブ運営に努めて参りました。引き続きクラブのヴィジョンと中長期計画の策定に取り組み、活力あるクラブを目指すという思いを次年度に驢け、退任のご挨拶とさせていただきます。

一年間の会員の皆様の大いなるご協力・ご厚情に厚く感謝申し上げます。

●富田例会担当委員長

例会運営にCOVID-19の影響が残る中、当委員会は、会員各々の資質向上と会員相互の親睦を深めることを目的として、会長・幹事・SAA及び事務局と緊密に連携を取りながら、ロータリー精神に溢れた有意義な例会となるように、以下の通り努めて参りました。

例会開催に当たってはCOVID-19への予防策を講じながら、徐々に会食の復活や配席、パ

ーテーションの撤去等を図りました。前年度に続き、リモートを活用した例会スタイルを模索しつつ、基本方針に沿った例会運営に努めました。

また、例会プログラムや卓話予定変更は柔軟に対応し、その管理運営に努めました。新しい試みとしては、昼間の例会出席が難しい会員のために、4回に亘って夜間例会を試行し、その結果を検証しました。

毎回の例会では、松本・谷口両会員に交替で司会をお願いし、また、出席受付を木村・福井両会員にお願いしました。この場を借りて、多大なご協力に対し改めて感謝申し上げます。

委員会事業として、2月16日の例会担当委員会アワーでは、地区の矢坂誠徳クラブ管理運営委員長（ガバナーノミニー）を講師に、クラブ管理運営についてお話を頂きました。また、4月6日の創立記念例会では、親睦の中で我がクラブの歴史を振り返り、将来を展望することを目的に、夜間例会を開催しました。

会長・幹事を始め会員の皆様、特に例会担当委員会の皆様、親睦委員会からお手伝い頂いた福井会員、そして事務局の安井さんを始め例会の設営や配膳に携わって頂いた皆様により、有意義な例会を開催できましたことに厚く御礼申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。一年間誠に有難うございました。

●中村 SAA

SAAとして、例会が秩序正しく楽しい雰囲気で開催されることに配慮し、とりわけ龍野ロータリークラブの「親睦こそ我がクラブ」という、創立からのモットーを大切に、堅からず柔らかからず、親睦の内に品位と秩序が感じられる例会運営に努めたつもりです。「心地よい緊張感」が漂う例会運営ができたかどうかは疑問ですが…

12月8日のSAAアワーでは、「会員が待ち遠しい魅力ある例会にするには」というタイトルで、KJ法により、グループごとに自由かつ活発に意見を述べていただきました。また皆様の意見を聞く機会があればと思います。

毎週のニコニコ箱の運営については、当初の予算を上回ることができたのは、SAAとして喜ばしく思います。皆様のニコニコの文面を忠実に紹介しようと思うあまり、気の利いたユーモアが言えず、まだまだ自分の力不足を実感した一年となりました。

こんな私をSAAとして、一年間温かく見守っていただいた会員の皆様に感謝申し上げます、退任の挨拶といたします。有難うございました。

●一色職業奉仕委員長

お陰様で、年度当初に計画した移動例会と職業奉仕委員会アワーを、無事終えることができました。

私自身は士業の個人事務所ですので、自社工場の見学会等のご用意はできませんでしたが、いま変貌途中の川西地区の様子を見て頂くのと、本條会長のご希望に沿って、仕事でも接する裁判官のリアルなお話を伺うことができれば、と思っておりました。

10月27日の移動例会では、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定された川西地区内で活躍するアーデン歩様に、古民家ホテルで地域活性化を旨とした経営観などのお話を賜りました。前もって、近くの町家レストランでランチを頂くというカジュアルな移動例会でしたが、たまにはこのようなスタイルも、気分転換が図れて良かったのではないかと思います。

1月19日の職業奉仕委員会アワーでは、神戸地裁龍野支部の山田智子裁判官をお招きして「調停制度100周年」について卓話を頂きました。裁判官と接する機会は余り無いと思いますので、経営者とは異なる、新鮮な視点のお話であったと想像します。山田裁判官は今年度も龍野支部の裁判官をされており、私自身も何となく以前より接し易くなったような気がしております。

皆様には一年間、ご協力を頂きまして有難うございました。

●伊藤社会奉仕委員長

本年度の委員会事業は、次の二つでした。

一つは、10月16日に、地区補助金を活用した奉仕プロジェクトとして「しろう自立の家」でのサロンコンサートを実施しました。「しろう自立の家」は昨年4月に新築移転した障害者施設で、誰もが分け隔てなく共に自分らしく在れる「共生社会」の実現に向けて、地域の交流・発信の拠点となることを目指しています。一般広報のために新聞折込などを計画していましたが、当該施設でクラスターが発生したため、急遽、規模を縮小しての開催を余儀なくされました。

これまで当クラブでは、会員が積極的に汗をかく社会奉仕活動があまり行われておらず、また地区補助金の活用に対しても消極的でしたが、この度、本條会長のリーダーシップのもとに事業を実現できました。今後も継続的な支援ができることを願っております。

もう一つは、11月3日に開催された「たつの市市民まつり」に於いて、「エンド・ポリオ」キャンペーンのPR活動として、ブース出展を行いました。会員各位から寄付いただいた品物を景品として募金活動も併せて実施し、多くの寄付金を集めることができました。この場をお借りして、ご協力いただきました皆様に、改めてお礼申し上げます。

申し送り事項として、最近「ポリオ」が何かわからない人の割合が増えていることから、より丁寧な、分かり易い説明が必要になってくると思いますので、次回イベントの際にはその点にも配慮いただければと思います。

●高田国際奉仕副委員長

世界平和は、寛容の精神のもと、相互理解により実現すると思っております。私は若い頃、アメリカに住んだり、リュックを背負って色々な国を旅したりしましたが、その先々で現地の方々と交流すると、その国のことが好きになりました。

2月2日の国際奉仕委員会アワーでは、高田商店の香港人社員に、どうして、どれくらい日本が好きなのかを語ってもらい、また12月には、伊藤委員長の計らいで、たつの市の国際交流フェスティバルに参加しました。

これらを通じて国際奉仕委員会として責務が果たせたと信じつつ、退任したいと思います。有難うございました。

●永富財団委員長

財団委員長を担当させていただき、皆様のご厚情、ご協力のお陰で無事務め終えることができましたこと、心よりお礼申し上げます。

当事業としては、10月6日（米山月間）に米山記念奨学生・王 宵様をお迎えして、「米山記念奨学会の奨学生となった私と日本留学の成果」と題し、米山奨学制度の意義についてスピーチを聞きました。

また、11月10日（ロータリー財団月間）の委員会アワーでは、当地区の城 守ロータリー財団副委員長をお迎えし、「～世界でよいことをしよう～ロータリー財団」と題して、ロータリー財団、並びに新たな重点分野となった「環境」についてお話を頂きました。

上記の活動と併せて、各基金への寄付をお願いしました所、会員各位のご理解ご協力により、次の通り寄付金が集まりました。重ねて厚くお礼申し上げます。

ロータリー財団	年次寄付	1,800.00 ドル
	ポリオ寄付	1,286.96 ドル
米山記念奨学金	普通寄付	210,000 円
	特別寄付	160,000 円

●池田会員増強副委員長

会員増強とは「ロータリーの心の友を作ること」と、会長の時間で本條会長が話されていました。その心の友として、段会員、北村会員、櫻井会員に加わって頂きました。喜ばしい限りで、改めて心より歓迎を申し上げます。

年初に掲げた活動計画として、9月1日の会員増強委員会アワーでは、地区の会員維持増強委員会から橋本雅彦副委員長をお招きして、「会員維持増強に関する現状と課題・事例」について卓話を頂きました。

また、入会候補者に対してのアプローチツールの作成については、広報委員会と協力し良いものが仕上がりました。

今年度、大変お世話になった皆様に感謝申し上げ、退任の挨拶と致します。

●喜多村親睦委員長

当委員会の活動目的として、会員相互の友情と親睦を深めることを考え、一年間活動しました

9月の観月例会に始まり、12月のクリスマス家族例会、5月の親睦家族旅行、そして先日の家庭集会まで色々行事を行って参りましたが、ロータリーの活動は、会員一人ひとりの積極的な参加と協力の結晶と言っても過言ではありません。無事に一年に亘り任期を全うし、委員会活動に励むことができましたことは、皆様からの温かなご協力があればこそ、と実感しております。

振り返ってみますと、行事の殆どに雨がつきまとい、ご迷惑をおかけしたことも少なからずあったのではないかと、思います。しかし雨は物事を好転させる力があるとも言われており、勝手ながら、雨がこれからのロータリー活動を好転・発展させてくれると期待しております。私自身も一年間の経験を生かして、より良い活動を継続していけるように努力して参ります。

委員会の各位と会員の皆様方のお陰で、無事務めることができました。厚くお礼申し上げます。

●片岡広報委員長

当委員会は、「RI 及び龍野ロータリークラブの活動を外部の方々にお伝えすること」を念頭に、以下の活動を行いました。

先ず、皆様からお寄せいただいたご意見を反映して、新会員勧誘に使えるクラブ広報パンフレットを作成しました。次年度の会員増強活動に積極的に使用したいと考えています。

また、「ロータリーの友」誌への投稿については、①「古民家の再活用から街の課題を考える」及び②「ロータリーのポリオ根絶運動を地元市民にお伝えするための当クラブの取り組みについて」の2件の記事を投稿し、2月号に①の記事を掲載いただきました。一色委員長の、ご自身の居住地区への思いも感じる事ができました。

結びに、クラブ週報の発行に於いて、掲載用の写真撮影、原稿の依頼・回収、全体の校正・編集に多大なるご尽力を賜った本條会長・西田会員・安井さん始め、お世話になった全ての人に感謝を申し上げて、退任の挨拶とさせていただきます。有難うございました。

●藤井情報副委員長

9月29日に情報委員会アワーを担当し、卓話をさせていただきました。創始者ポール・ハリスの生涯を振り返り、ロータリーの原点を考えてみました。明治維新の年に生まれ、2度の世界大戦を経験した彼の数々の名言は、読み返す度に新しい意味合いを教えてくれる気がいたします。

●荻野幹事

会員の皆様、安井さん、一年間、色々とお世話になりまして、有難うございました。特に本條会長には、クラブのために格別のご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

本條会長の「Be Rotarian」、ロータリアンたれ、というテーマには、日々の生活の中で品格と

思いやりが滲み出る人であれ、という思いが込められていたと考えます。また会長からしばしば聞かれた「忠恕」は、この一年で胸に刻まれた言葉となりました。

安井様には、全てが上手くいくように予め手配して下さり、お陰様で毎回の例会に明るい気持ちで臨むことができました。

各委員会の皆様には、お忙しい中、できる限りのことをしていただきまして、誠に有難うございました。本年度はクラブの諸行事が再開できて、特に、親睦行事では本当に楽しいひと時を過ごせました。また、各種委員会アワーでは多くのことを学ばせていただきました。

池田直前幹事には、温かい励ましのお言葉をかけていただき、副幹事の一色様には、何度も幹事報告を交替いただき、有難うございました。

幹事就任前に、浅井研介会員や本條会長を始め、多くの先輩方から、幹事が大変かつ大切な仕事であると教えていただきました。

思い返しますと、幹事になるということは、単に例会を楽しむという立場を脱して、会員の皆様をお迎えするという立場に立って、クラブと会員との関係、クラブと地区との関係がより良いものとなるよう、日頃から考えて最善を尽くして欲しいとの願いが込められていたと思います。そして、幹事として最善を尽くすことが、自分自身の成長にも繋がる、ということを教えて下さったと感じています。

私の幹事としてのあり方は、恥ずかしい限りですが、3名の新会員へのフォロー、気配りが不十分であったことは特に反省しております。

今年度に接した様々な方のお話を基に、改めてロータリー哲学を見直してみたいと思います。そしてロータリーの奉仕の理念をどう解釈し、それを日常生活に浸透させていくかを考え、職業人として、一市民として、まっとうに「やるべきことをきちんとやる」という責任感を大切に、精一杯日々を過ごしたいと思います。

改めて、本條会長、会員の皆様、安井様、一年間、本当に有難うございました。